

令和4年第2回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和4年2月24日(木) 14時00分
- 2 閉会日時 同日 15時35分
- 3 開催場所 市民会館 2F視聴覚室
- 4 出席者 教 育 長 民 輪 惠
委 員 沼 澤 郁 美
委 員 楠 田 初 美
委 員 中 川 和 之
委 員 深 田 英 世

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長 植 田 正 吾
教育委員会次長(こども園民営化担当)
高 倉 慧 喜
教育総務課長兼給食係長 伊 藤 勝
教育委員会課長(学校施設担当)兼施設係長
井 上 英 文
学校教育課長 安 富 重 則
こども未来課長 丸 山 常 基
生涯学習課長 北 島 悦 乃
総合教育センター所長 工 藤 憲 人
図書館長 藤 川 貴 博
教育総務課長補佐兼総務係長 松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移る。

- 6 付議事項

議案第4号 令和4年度加西市立公立学校の管理職人事内申について

- 7 議題となった動議を提出した者の氏名

教育長より、本日の議案第4号は人事案件であるため、加西市教育委員会会議規則

第15条第1項ただし書の規定に基づき非公開とすることを諮り、出席者（5名）の全会一致で承認を得る。

会議の進行上、先に報告事項を行い、付議事項は休憩を挟んだ後に非公開で審議する。

8 報告事項

教育長

1月20日の前定例教育委員会以後について報告する。

1月21日、代表区長会へ出席した。2022年の新しい区長さん方との最初の会議になった。

1月22日土曜日には、加西市老人クラブ連合会の会員研修会があり、拝聴させていただいた。

1月24日には、教職員の新規採用面談が行われた。

1月26日、実は西村市長と共に参議院議員会館、衆議院議員会館へ伺い、文科大臣や衆議院議員への要望活動を行ってきた。議員会館には文科省の丸山審議官もお越しくださり、義務教育から取り組む「加西STEAM」により、新しい令和日本の教育モデルを加西市から構築し発信していきたいというお話をして、ぜひ国レベルでの支援をしてほしいとお願いしてきた。文科省としては、義務教育でそうした取組を始めているところはほとんどなく、大変ありがたいのでバックアップできるよう、すぐに検討しますということで、このときの感触は大変良かった。

1月27日、トマト農家の久世さんが来庁された。「よしよし畑」をご存じかと思うが、加西市で農業をするためIターンしてきた方で、若い感覚を入れながらおいしいトマトを作っている。できればぜひ学校給食とコラボしたいと話し合った。また、毎回百人前後の受講生を集める人気の「播磨国風土記講座」があり、既に8、9年続いているかと思うが、この日はその打合せにも参加した。

1月28日には、未来の学校構想素案に対する連合PTAとの協議を行った。各PTA会長16人に素案の説明をした上でご意見を伺った。皆さん大変虚心坦懐に意見を出されていたと思う。もちろん我々の出した素案に対して「小学校も統合をすべきだ」という意見の方もいらっしゃった。ただ、私の感触としては、動画などを事前に見て来てくださっている感じもあり、素案を理解したうえで、「学園構想に賛成いたします」と明言された方も何人かいらっしゃった。また、「良い素案だ。地域に小学校を残してほしい」と発言された方も結構多かったという印象がある。

それにしても、子どもの数はどんどん減っており、PTAだけで学校を支えるのは大変重い負担になっているので、支えてほしいという実感がひしひしと伝わった。もっと地域全体で学校を支えていかなければいけないし、きちんと対策を考えていかなければ

ばならない大切な問題だと思う。

1月30日日曜日、アステリアかさいの会場を借りて食育のイベント「ONE DAY FISH」が行われた。教育総務課が主催した新しい発想の催しである。お魚のことを何でもよく知っていらっしゃる「お魚かたりべ」お二人が、東京の豊洲市場から来てくださった。その周りには、目をきらきらさせたにわか作りの小さな「おさかな博士」が何人も誕生して、まわりつくように先生に質問攻めしていた。その様子については、「教育長雑感」の第26回「エビの足は何本？」というコラムに詳しく書かせていただいている。今日は時間がないので、手前みそだが、お時間が許せばご一読いただけるとありがたい。

2月2日、定例校長会が初めてリモートで行われた。なかなか慣れないことではあるが、管理職自らがこうした会議の形式にもっと慣れることこそが大事だと感じた。実は学校教育課長を初めとして、私たちは「リモートだから少し早く終わるかな」と期待をしていたのだが、意外にも全然早く終わらず、かえってきちんとした会議となった。また、同日には補正予算ヒアリングや、加西市未来の学校構想検討委員会の渡邊会長と次回の検討委員会の協議を行った。

2月4日には、播磨東教育事務所の桂所長と山下さんが来庁され、県の予算のずれなどについていろいろと説明をされた。

2月5日土曜日、加西市区長会総会が行われた。100人以上の区長さんがずらっと市民会館に来られた。去年と少し変わっていたところは、市の現状と施策の発表後に、1時間弱「ともに創る加西の未来」と題した講演が行われたことだ。講師は男女共同参画プロジェクトや社会教育委員をお願いするなど、お世話になっている中村和子さんだった。お話では「キーポイントは女性の参画であり、意思決定の場にもっと女性を」という内容であった。途中で平成30年に小野市広渡町で区長をされた大嶋澄子さんが壇上に登場され「わからないのは男性も女性も同じ。だからやってみてほしい」と訴えられた。しかし、その会場に女性はほとんどおらず、男性ばかりであった。会場の参加者はほぼ男性ではあったが、中村さんや大嶋さんの体験に基づいた地域づくりのお話が、今年の新しい区長さんの心の琴線に少しでも触れて、現実に地域づくりが新しく活性化してくれればいいなと切望する会であった。

また、この総会で西村市長が、4月1日から加西市全小中学校の給食費全面無償化、そして、10月1日から0～2歳児の保育料無償化を発表された。0～2歳児保育料無償化ということは、つまり0～5歳までの保育料は全面的に無償化されるということである。既に皆様いろいろな機会を捉えてお話していることであるが、これは画期的なことだと私は思う。横浜にいるジャーナリストの友人が今日教えてくれたのだが、全国で小中学校の給食費を無償化している市町村は大体4%ぐらいだそうだ。「横浜市などでは、去年からようやく中学校の給食が始まったばかりで、無償化には膨大な予算がかかるので、夢のまた夢だ」という話で、「大英断だね」と言っていた。それぐら

いのことであるのだから、我々教育委員会としては本気でPRし、腹をくくって、未来に向けて加西市の教育を充実させなければならないと思っている。どうぞよろしくお願ひしたい。

そして、2月7日には第3回加西市未来の学校構想検討委員会が行われ、今回は主に小学校のあり方について検討された。教育委員の皆さんも傍聴してくださっていた。大変活発な議論がされている。こういうことをしているという情報をできるかぎり多くの市民の皆さんに拡散して、ぜひ一人でも多く議事録を読んでいただくと共に、できれば当日傍聴にお越しいただければと思っている。詳細については、議事録も発表されるのでここでは申し上げない。その後、給食費の無償化に対応するため、臨時教育委員会を急きょ開かせていただいた。条例の一部改正を議決いただき、感謝をしている。

2月8日、播磨東教育事務所で教育長ヒアリングが行われ、主に管理職の配置などについて協議がされた。

2月9日、市民教養講座「もっと便利に！初めてのスマホ体験講座」が開かれた。同じ講座は北部公民館でも行われたが、エレベーターがないので、私は善防公民館に見学に行った。出席者は60代後半から70代の方々に、大変熱心に聞かれて質問もされていた。生涯学習のテーマの一つには、「今さら聞けない〇〇」というようなテーマがたくさんあると思った。その糸口を与えてさしあげることが、生涯学習にとって重要な視点だと実感した。

2月10日には、今度、加西市から市外の小学校へ出られる教頭先生があるので、先方の教育長がご挨拶に来庁された。

夕方にはさわやか市民賞授与式があり、西在田小学校6年生にさわやか市民賞が贈呈された。先日の神戸新聞にも写真入りで紹介されていた。西在田小学校6年生は、男子ばかりで8人しかいないとどうしても否定的な表現で語られることが多いが、力を合わせて全国SDGsデザインコンテストの優秀賞を獲得した。その場に付き添われていた保護者の一人が西在田小のPTA会長さんで、先日の連合PTA協議会で「小規模で男子ばかりと、何かと悪い例のように言われているが、その西在田小6年生が、全国でも数校しかもらえないSDGsの優秀賞を頂いた。小規模でも、大変良い先生に恵まれてしっかりやっております。」と大変誇らしく語られていたことがよみがえった。

2月15日、新採用教職員の最終面接が行われた。

2月17日、加西市防災会議が行われた。このとき西村市長が「実際に防災で活躍していただくのは、実は女性だと思うが、この会場には教育長ともう一人、婦人会長、二人しか女性がおられません」と発言し、「次からは代理出席ももちろん代表も、極力女性をよろしくお願ひします」と言われ、「最近、熱が入っているな」少し驚いたが、いいことだと思う。

そして、2月18日、第2回播磨東教育長会議があり、明石や姫路はもちろんのこと、

三木、西脇、小野、加西といった播磨東教育事務所管内の教育長がオンライン会議を行った。みなさんどちらかといえば高齢なので、準備する担当者は多分大変だっただろうが、それでもどんどん新しい方法に挑戦することは大事なことだ。皆さん結構活発に発言されていた。

2月21日には、文科省から6人も出席されて、加西 STEAM 推進に係るオンライン会議を行った。ほとんど全員の管理職が同席した。実際に STEAM をどう教育現場に落とし込んで、児童生徒が楽しくわくわくしながら自分自身で問題を発見し、我が事としてどのように問題を解決していくのかという発想を持ってもらうことは、加西 STEAM において大変重要なことである。しかし、言うは易しで、教育現場は本当にハードな現実を抱えている。できるだけ広い見地からの支援や示唆を頂けるよう、文科省とは継続的に協議の場を持ちたいと考えている。今、国がどういうことを考えながら新しい教育に取り組んでいるのかということがじかに伝わってくるので、こういう会議は大変重要だ。

同日午後には、子ども子育て会議が行われた。西村市長は今年度の施策のトップに「子育てにやさしいまち加西」を掲げようとしており、この子ども子育て会議というのは、その実現に向けた最前線とも言える存在だと思っている。まだ実際に具体化はしていないが、今後、未来型児童館のビジョンや機能についての議論も深まっていくと期待している。

それから、2月22日には、北条東小学校で今年ずっと取り組んできた STEAM 教育の第3回目の授業が行われた。5年生2クラスの子どもたちが、「カーボンニュートラル日本一の加西市の未来をつくろう」という、驚くようなテーマで授業を行っていた。今回は仕上げの第3回目、PPSとマツダの方は、コロナ禍でリモートでの参加となった。三、四人の子どもたちがグループごとに、あるグループは「節水と節電」をテーマにしていた。自分たちがお水を飲むだけでどれぐらいカーボンを排出しているのかというデータまで添えて議論をしており、本当に驚いた。また、例えば「ごみ問題」とか、「地産地消の食」などのテーマもあった。

小学生らしい視点で、「こんなのがあったらいいな」というまさに STEAM の一番核心を突いた試みだった。そして、「地産地消と言っても、大人はそんなに買わないので、どうしたら買ってもらえるかを考えてアプリを作りました」。加西市産野菜を買ったらアプリでポイントがたまるというものだ。「すごい、よう考えているわ」と感動をした。大人なら「そんなあほな」と言うようなことでも、子どもたちは大真面目に取り組んでいる。そこに未来があると思った。

PPSやマツダの皆さん、兵庫教育大学の森山先生も本当に驚かれ、感動されていた。こういう加西 STEAM が広がっていくといいと思う。先生の役割は「これ何でこうなるの」とか、「データとかあらへんのやろうか」など、上手にモデレートしてヒントを与えることだ。まだ5年生の小さい子どもたちが、現実の課題を我が事として捉え、責

任を持ってそれに挑み、志というものが感じられたことが、一番うれしかった。

本日2月24日午前中、県立高等学校教育改革第三次実施計画骨子の事前説明ということで、県から次長と高校教育課参事が来庁された。資料は厳重取扱注意ということなので、詳細は申し上げられないが、まず、魅力と特色ある高校作りの大事な柱の中に、STEAM教育もきちんと文言化されて出ていた。我々の取り組んでいることは、多分これからもっとあちらこちらで頻繁に取り組みられていくだろうという予感がした。

学校教育課長

まず、新型コロナウイルス感染症に係る状況と対応について報告する。新型コロナウイルス感染症の感染状況については、市内全域で児童生徒の感染者が確認されている。第5波までとは打って変わり、劇的に感染者が増えている。実は今も学級閉鎖の判断を仰ぐメールが入っており、毎日、学級閉鎖対応をしている。

事務局としては、加西市医師会からの助言や提言を受け、オミクロン株の特性を踏まえ学級閉鎖基準を独自に見直した。これまで、学級に複数名の感染者がいることなどを要件としていた。しかし、ご存じのとおりオミクロン株の感染は、これまでの新型コロナウイルスに比べ速いという特性を鑑み、学級内に1人感染者が判明して、かつ他の児童生徒との最終接触から3日間が空いていない場合、原則学級閉鎖としている。解除までの日数は原則3日間としているが、解除の際に、当該学級の児童生徒の健康観察をかなり丁寧に行うよう指示している。つまり解除ありきではなく、延長するかどうかというスタンスで学校が判断するよう指示している。

報道にもあるように、国の基準では学級閉鎖は5日から7日間を推奨している。しかし、加西市医師会と入念に議論の上、1メートル以内でマスク着用なし15分という濃厚接触者の判定基準に当たるような教育活動は現状なされていないこと、学校での通常の教育活動では、濃厚接触者として認定される事案がほとんどないことを鑑み、さらに、学校教育活動の継続性や学びの保障という観点からこの措置を取っている。今のところ、この基準が影響していると思われる感染拡大の状況は認められていない。つまり日数が3日間と短いことで、加西市での感染がすごく広がっているということはなく、学級閉鎖が増えているのは、新たな学級や学校がどんどん閉鎖しているという状況である。

一方で、学級閉鎖基準に満たないものの、発熱症状のある児童生徒が増えた場合などには、医師会の助言を頂きながら、学級閉鎖あるいは休校の措置を実際に行っている。家庭と学校が連携しながら、水際で感染を防ぐことを最優先事項としている。この判定については、こども園には預かりという部分もあるので、学校の基準とは若干変わってくるところがある。学級閉鎖についてはそうした状況で、医師会との調整の中、教育委員会が決定している。

次に、学校教育活動の現状と今後の見通しについて報告する。県教委の基準に準じ、

児童生徒や教師以外の方が校内に入るとは控えてもらっている。先ほどの学級閉鎖の基準は、まん延防止等重点措置の期間ということで、一応3月6日までとしている。この学校教育活動についても、県の判断基準に準じてあくまで3月6日までの当面の間の措置として考えている。これには具体的に参観日などが挙げられる。ただし、進路に関わるもの、入学説明会などについては、児童生徒との接触を避けた保護者のみの招集で可とし、行っているものもある。

卒業式について。加西特別支援学校高等部以外の卒業式は、まん延防止等重点措置から外れる期間に行われる。しかし、既に少しお伝えしていたことだが、現時点で県内全域に重点措置が取られていることを踏まえ、ご来賓の臨席を控えていただくことにした。教育委員会の告辞、市長及び市長代理の臨席も同様に控えていただくようお願いしている。というのは、特に中学3年生の受験や新学期に新たな高校へ進学する子どもたちに対して細心の注意を払いたいということ、また、最小限ながらもやはり保護者や在校生を可能な限り会場に入れてあげたいという狙いの下、この措置を取っている。ご存じのように、卒業式は学校の中で一番重要な儀式的行事として捉えている。それで、我が子を感慨深く見つめる保護者の思い、また、卒業生の姿を見て次は自分たちが学校を引っ張っていくのだという在校生の新たな志こそを、私たちは最優先したいと考えている。

昨年度に引き続き事務局では、民輪教育長から卒業生たちへのビデオメッセージを届ける準備をしている。

次年度の入学式について。卒業式からそう時期が離れていないことを踏まえ、入学式でもご来賓の臨席を控えていただくという措置をしたいと思っている。小学校の卒業式はちょうど1か月後になるので、そろそろ卒業式と入学式を含めた案内状を発送することになると思う。教育委員の皆様は、日頃から巣立ちゆく子どもたち、希望に胸を膨らませる子どもたちの姿を直接見てあげたいと思っていただけており、その機会がなくなってしまったが、どうぞご理解を賜りたい。

教育委員からの意見や質問と学校教育課長の回答

- ・コロナで刻々と変わる大変な状況に対応していただき、本当にありがたく思っている。日々、北播の新聞で、加西市の各学校でも学級閉鎖や休校になっていると目にして、本当に心配していた。各学校の先生方が各々に対応されていること、また、今の報告にもあったように、教育委員会もその都度、市の状況を見ながら加西市独自で決断されていることに、本当に深く感謝している。

1年前から Chromebook による多様な教育が始まった。こうしたコロナで休校や学級閉鎖になったときこそ、特に大きな力を発揮するのが Chromebook だと思う。多分、Chromebook が今活躍していると思うが、その実態や現状はどのようにされているの

か。また、実際にされてお困りのこと等があれば、少し教えていただきたいと思う。

(回答) まず、1月22日から陽性者が出始めた。学校によっていろいろだが、実は3学期が始まってすぐそうした学級閉鎖の対応に備えて、あらかじめ毎日持ち帰りを始めた学校がたくさん出てきた。そうした状況もあり、Chromebookを自宅に持ち帰って活用するという事例は本当にこのおかげというか、今回の学級閉鎖措置によって劇的に広がった状況がある。

令和2年3月、4月のような完全に長期の休校や学級閉鎖である場合には、オンライン授業も考えられる。しかし、今回、長くて3日間学級閉鎖したのは1学級だけで、あとは土日を含んで1日あるいは2日というところがほとんどである。それで、実はChromebookを使って授業するほどのところまではいっていない。とは言いながら、健康観察や朝の会で使うとか、例えば小学校であれば、45分授業のうち最初の15分、20分で先生が説明をして、残りの20分は自宅で各自課題をさせたり、また、例えば漢字ノートなら、その部分を写真で撮って学校に提出させ、先生が画像上で丸をつけて返したりというような取組も進めてくれている。であるので、双方向の授業はあまりないが、そうした取組状況がある。

また、例えば学級閉鎖ではなく、個人的に出席停止している子どもが1人2人いる場合は、先生の前にChromebookを置いて、その子たちも家で受けられるような授業をするなど、小中学校共に状況に応じて進めてくれている。今、センターはモバイルルーターを準備し配布してくれており、全児童生徒が家庭でChromebookを使える環境ができていますので、順次できることから始めてもらっている状況である。

- ・今のお話では、一人で学校を休んでいる子どもが、リモートで授業を受けられるところもあると言われていたが、例えば全体が学級閉鎖になったとき、2、3日ではあってもリモートできちんと授業をしている学校というのはあるのか。

(回答) 今申し上げたように、なかなか45分ずっと授業というわけにはいかないもので、朝の会をしたり、最初の10分、15分で課題を与え、後で提出させたりというようなことはしている。しかし、1日、2日の学級閉鎖なので、誰もいない教室で先生が黒板の前で授業をオンラインですするというような事例は、特に聞いていない。

- ・学級閉鎖になった場合、皆さんに一応Chromebookを持ち帰ってもらうという体制を取っているのか。

(回答) 100%ではないがそうである。今申し上げたように、学級閉鎖は1、2日で済んでいて、必ずしもChromebookを持ち帰る必要がない場合もあるので、状況に応じて行っている。その体制は小中学校共に全ての学校でやってくれている。ただ、実際に活用できる事例があるかといえば、例えば感染者は10日間の自宅待機になるので、学級全体でというよりそうした子どもたちに個別で持って帰ってもらい、授

業を映しながら授業を受けられるようにする学級もある。それも教科によってなど、いろいろと工夫してくれてはいる。

- せっかく Chromebook が 1 人 1 台ずつあり、以前から教育長が「持って帰ってもらっていいよ。少しぐらい壊れてもこちらで何とかします。」と言われるぐらい力を入れていただいているのだから、「学級閉鎖は 1 日、2 日だから、そんなにはしない」ではなく、たとえ 1 日、2 日でもやはりできることは発信して、授業を行っていくというスタンスではないのか。例えばこの学校ではしているが、こちらではしていないということでは、個々にばらつきが出てしまう。それで、しっかりと共通してこういうふうにやってくださいというような、例えば「Chromebook で 15 分はこういうふうにやってください。その後は」というような案内、指導等を教育委員会が行って、統一されているのか。

(回答) Chromebook の活用事例的なものは渡している。教育委員会として活用できる環境をつくっており、例えばこういうことができるという事例は申し伝えているが、教育課程そのものは学校で編成してもらっているのもので、実際現場でやることは学校それぞれに判断してもらっている状況である。

イメージをしにくいと思うが、子どもたちにとって画面をずっと見ながら 45 分の授業をすることは、実際に不可能であり、それが 6 時間となるとなおさらである。だから、もちろんそういう意味に取られてはいないと思うが、授業をやりたくなくてやっていないというわけではない。こういうときにできないことよりも、子どもたちが鉛筆を持ち、字を書いてするような学習やスキル学習に重点を置こうということで行っている学校もある。また、午前中には健康観察をずっとするので、それでいくとなかなか 6 時間授業というわけにもいかない。

しかし、決してそういった状況がないわけではないし、1 日、2 日だけだからやらないというわけでもなく、状況に応じてさせていただいている。今後、できるだけ委員が言われた双方向の授業を行うことも含め、ICT を使う環境はより広がっていくと思うので、どんどんその可能性を探っていきたいと思っている。

- 1 日 6 時間も Chromebook で画面を見るのはやはりとても無理なので、例えば午前中は 2 時間で午後は 1 時間だけとか、間を空けてとか、いろいろなやり方がある。しかし、例えば「あなたのところの学校は独自で考えてくださいね」となると、A 学校はしているが、B 学校では何もしていないという差異が出てきて、やはり教育上問題が生じてくると思う。それで、一つに、皆さんがどのようにしているかを把握し、ある程度統一していただきたい。それはもちろん小学校同士でもそうだし、小学校でしているのに中学校では全然違うというのも、問題が生じてくると思う。

今、こうしてコロナで授業ができないことで、問題がいっぱいあるが、そこはチ

チャンスだと思う。先生方は大変なご負担だと思うが、これによって一つずつ皆さんが足並みをそろえ一つの形で進めていっていただきたい。特に Chromebook という大きな武器があるのだから、1日だけ、3日だけだからではなく、やはり活用していただきたいというのが本音である。

(回答) ご意見をありがたく思う。実際に小中特別支援学校、教育委員会、ICT支援等も入った情報担当者会というものを開いている。そこでは、どういったことがなされているか、どういう事例が有効かという情報収集をしている。そして、ネットワーク上にある市内全体の共有フォルダーに蓄積して行って、事例集を作っている状況である。

委員が言われたように、今だからこそ見えてきたことはたくさんある。本当のことを言うと、我々も40分、50分という授業がずっとできるだろうというようにに思っていたのだが、現場の実践により、やはりそれは不可能だと分かってきた。それが工夫につながると思うので、今委員が言われたようにチャンスにしながら、子どもたちの学びの保障になるか考えていきたい。ご意見に感謝する。

- 例えば45分が難しいなら、たとえ15分でもそういうふうなことにして、つなげていくことが、ある意味でコロナ禍の逆のチャンスだと本当に思う。学校がそれぞれ別個の状態であるのではなく、やはりある程度の基準になるような仕方でご指導をお願いしたいと思う。刻々と変わる大変な時期で、先生方や教育委員会の方にはものすごいご負担がかかっていると思うが、よろしくをお願いしたい。
- コロナ禍で大変いろいろと苦勞をされていると思う。私の息子は善防中学校なのだが、息子から学校を休んでいる子も持ち帰った Chromebook を使って授業を受けていると聞き、「すごいな、善防中学校も頑張っているな」と思っていた。ただ、私が聞いた話では、ある保護者さんは、小学生と中学生のお子さんをお持ちで、二人とも休んでいるのだけれども、小学生のお子さんはきちんと Chromebook を使って授業をしているのに、中学生は全くそうした授業はなく、休みだからとだらだらされて困っているという。先ほど沼澤委員も言われたとおりで、なぜ小学校と中学校でそこに差異が出てくるのか。リモートでするかしないかということよりも、なぜその差が出てくるのかというのを少し教えていただきたい。

(回答) 我々もその事例はお聞きしていて、部長と共にそれはどうなのだろうということでも学校に聞き取りしたところだ。確かに兄弟がいると余計よく見えるということがある。ご意見いただいたように、これをチャンスにしながらどういう活用の仕方ができるのかということを考えてもらいたいと申し伝えている。先日の教頭会でも、部長のほうから学校へその辺りを入念に指示、指導させてもらったところである。

(総合教育センター所長の回答) おっしゃることはよく分かる。我々教育センターとしてもそれを悩んでいる。委員が言われたように、センターでは全部一斉に「最低でもこういうことをしてほしい」とか、「こういうことはしましょう」と出したほうがいいのかという議論をしていた。ただ、学校によって教師の人数や生徒数、施設などの条件が本当に違って、現場からは「一律に合わせろと言われるのが、より難しい部分である」という意見が出ている。

実は、総合教育センターでは、北播管内他市の教育委員会全部に調査用紙を送らせてもらい、実際どれぐらいオンライン授業をしているかという調査を取った。また、どんな方向でやれるか機器をどうつないでいるかということも聞いた。すると、40人学級での一斉双方向授業と10人ぐらいのクラスで授業をするのでは全く違って、やはり多いクラスで授業するのは難しい。一方的に情報を出すだけならいいかもしれないが、質問も受けにくくなるので、多い学級は分けて行うほうがいいということが分かってきた。そうすると、先生の数も問題がある。それから、先生1人でオンライン授業をするのはやはり難しいということが分かってきて、他市を見ていると、きちんと授業を成功させようと思うと、小学校では3人ぐらいの先生がついているという学校もある。

ということで、内容的にどこまで授業の形を取るのか、先ほど学校教育課長が言われたように、最初に説明、問題練習をして提出させる形にするのか。そうすると、質問できないときはどうするのか。質問を受けるにはどうするか。そういったことでいくと、一律に合わせるといことがなかなか難しくなっている。だから、委員も言われたように、やはりしていない学校はたとえ15分でも、やり方が双方向の授業にならなくても、もっと積極的にできるところを探っていくよう、今後も我々から発信していこうと思っている。ただ、一律とか、比べてというのは、単純に難しい現状があるのは事実かと思う。

- ・少しでもいいのでやはりやってもらいたい。私が思うにデータが欲しい。やらないと、データもないので次の解析ができない。その解析をして初めてどう改善していったらいいのかが分かる。いつまでたっても想像だけで、これはできるとかできないというのは分からない気がする。たとえ10分でもいいのでやってみてほしい。

これは多分定例会で言ったかと思うが、去年、善防中学校では、朝礼だけでもいいからきちんとやろうということで、生徒にプリントを配り、親は入ってこなくていいので、プリントを見ながら生徒に操作をさせて、本当に10分だけ朝礼をオンラインでやっていた。それを見ていた私は、息子に「どうや、できたんか」と聞くと、息子は「簡単や、できるわ」と言っていた。先ほどの話にもあったが、最初から難しいことはできないけれども、校長先生と生徒をChromebookでつないで話を聞くということで、取りあえず見られたら学校に来いと言われていた。できたのはできた

けれども対面でするのは違い、なかなか理解しにくいと息子は言っていた。しかし、それはまた後の話だと思うので、取りあえず少しでもいいのでやってみて、データを出していただきたいと思う。

こういうことを言うのはいけないかもしれないが、前回の学校構想検討委員会のとき、あれこれ想像だけで、統合しかないという意見が出ていた。そういう意見を聞いていて、そんな何の根拠もないことを言っていたらあかんやろうと途中で思ったわけである。だから、やはりやってみて、解析して改善していくほうが、余程事が進んでいくのではないかと私は思う。それで、やはり取りあえず少しでもやっていただきたいというのが、保護者としての私の意見である。現に善防中学校は取りあえずやってみようとしているのが分かる。あとの中学校どうなのだろうか。

それに加えて、STEAM教育についても、先ほど教育長が言われた北条東小学校で3回の授業が行われたり、西在田小学校でSDGsの賞を取ったり、富合小学校でも伊東電機に見学に行ったりと、そういう小学校でSTEAM教育を頑張っているというのはよく聞いている。一方、中学校ではSTEAM教育でこういうことをやっているというのは、私は正直聞いたことがない。私としては、中学校のほうが小学生からすればお兄さん、お姉さんなわけなので、やはりそこはリードしてやっていただきたいというのがある。だから、保護者の目から見て、小学校は頑張っているのに、中学校はどうなっているのか、なぜ小学校と中学校でこんなに差がつくのかとってしまう。

最初、私の勝手な考えかもしれないが、中学校には高校受験等があるから、やはり時間がなくて勉強の授業を重視する感じに思っていた。しかし、小学校のほうがリモートで授業をしているのに対し、中学校のほうはリモートでやらない、Chromebookも多分持ち帰ってさえないと思われるし、授業をやらず生徒はだらだらしているという話を聞いたとき、これって反対と違うかなと思った。そう思うと中学校のほう心配になる。小学校は校長先生も一生懸命頑張ってやっていたらしゃるのに、中学校はどうなのかというのが正直な思いである。やはり先ほど申し上げたように5分、10分でもいいので、リモートで取りあえずやらせてみてほしい。それで、データを出せば、このさきどうやっていくかが見えてくるのではないかとと思う。

ただ単に思っているだけではことは進まない。それで、そのまま6波、7波、8波となれば、結局、最初のときのように教職員が各家にプリントを配りに行くということになりかねないと思うので、教職員は本当に大変だとは思いますが、春休みに入ったときに、少しでもいいからやっていただきたいというのが私の思いである。一度にやれとは言わないので、たとえ5、10分でもいいから少しお願いしたいと思っている。

(総合教育センター回答) ご意見に感謝する。我々センターもそのためにルーターを

整備したつもりで、それを進めていきたいと考えている。中学校のほうでもできることを考えて、できるだけ取り組むようにしていく。

- ・子どもたちにとってパソコンをいじるのは、ゲーム感覚とまではいかないが、大人より頭が柔らかいから、少ししたらすぐに覚えてばばっとやると思うので、ぜひお願いしたい。期待しているので、よろしく願います。

(回答) 長くなり申し訳ないが、2点お話ししてよろしいか。

まず、一つ目は、学級閉鎖中の Chromebook の持ち帰りの件について、学校間で確かに差が出ているのはそうなのだが、状況を言えば、実は学級閉鎖措置の連絡というのは、ほとんど保護者が帰られた後の 18 時、19 時に陽性者の連絡が入り、そこから、次の日の学級閉鎖措置をしている。そのため、Chromebook を持ち帰らせたくても、できないという状況がほとんどだ。先ほども申し上げたように、小学校と中学校で対応の差があったときには、なぜこうなっているのかという指導は入れたのだが、多くの場合、その理由は、急に学級閉鎖措置を決めて、1 日、2 日の措置ということで、持ち帰れていない状況があった。

今、教育長から「毎日持ち帰っていないの」と言われたが、いつも毎日持ち帰っているわけではない。先ほど申し上げたように持ち帰るよう準備をしていたのは、実は小さな学校で、浸透できるところ、やりやすいところから取り組んでくれている事例があった。200 日ほどある授業日で、毎日持ち帰りをする必要はあるかないかということも含めて、今学校のほうで本当に考えているところである。

もう 1 点、中学校の STEAM 教育について。確かに報道ベースには載っていないが、中学校でも大変良く考えられているなという取組を行っている。北条中学校では数学の授業でドローンを使った STEAM 教育を計画しており、2 学期には数学でペットボトルのいかだを使って学習した事例がある。善防中学校は、トライやる・ウィークと関連して課題を解決する学習。加西中学校も、同じように鶴野飛行場を利用した学習。泉中学校は命をテーマにして年間を通じて探究的な学びをしていた。

コロナの状況があり、従来のトライやる・ウィークの形を少し変えて探究的な視点で取り組んでいる。中学校は出口に受験があり、教育課程上、時間を編み出すのは本当に大変なことである。それでも、必要だと賛同されて今やっているところなので、報道には載っていないが、教育委員さんに知っていただけるように、こちらでも努力していきたい。教育委員さんにはご理解と、また、学校に行かれたときには応援するまなざしをどうかよろしく願いたい。

- ・小中学校の児童生徒に毎日持ち帰らせることは、一度試したらいいのではないかと考えた。教育長も言われていたように、毎日持ち帰ってもし何かあったときは、そのときにその都度、改善していけばいいと思う。それで、どういう事例でこういう

ことになったかというのも分かる。毎日、教科書は持って帰っているのだから、そこに Chromebook 1 台ぐらいという言い方をしたら駄目かもしれないが、毎日持って帰ってもらうほうがいいと思ったりする。

それと、中学校での STEAM 教育の話もこれだけ教えていただいたので、何とかそれを加西市教育委員会のホームページか何かには一んと載せて、こういうことをやっているというのを大々的に出してもいいのではないか。

時間がなくてと言われたら何とも言えない。それでも、4 月からでもいいので、新しい入学生も入ってくることで、一度、入学生も含めて 1 か月だったら 1 か月間、毎日持ち帰らせて、どういう状況かを見てもいいのではないか。取りあえずやってみないと分からないので、ぜひ毎日全員に持ち帰らせたらいいのではないかと私は思う。期待している。Chromebook を 1 人 1 台ということで、加西市は兵庫県でも 1 位、2 位というこれだけ急速なペースでされているので、だらだらいくという言い方をしたら駄目だが、やはり想像するだけではなくやってみて、データを取って、解析して、改善していただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

(教育長の回答) ご意見に感謝したい。前向きにやっていきたいと思うので、ご支援をお願ひしたい。

こども未来課長

令和 3 年度加西市保育士等定着支援一時金給付事業について報告する。令和 3 年度から当事業を実施しており、今年度の対象者と金額を挙げている。資料の左より、園名、人数を載せている。人数は 11 名、交付対象者には採用月から交付することになっている。そして、一番右の金額については、例えば一番上からいくと、月額 2 万円、年額 24 万円。市外からの方は 5 万円のプラスアルファがつくが、今回市外からの方はいなかった。各園それぞれで計算すると、今年度は年間 204 万円を支払う予定である。

次に、先ほどの学校教育課からも報告があったが、こども未来課関連のところでもコロナ関係の報告をしたい。学校とこども園でのコロナ感染については、双方関係するケースが多々ある。新聞にも記載されているように、2 月に入ってから市内こども園も毎日のようにクラス閉鎖がされているところである。

閉鎖基準について。先ほどの学校教育課の報告でもあったように、学校については、従来、複数の感染が認められた場合という条件だったが、現在は 1 名でも発生すれば学級閉鎖措置をする。一方、こども園もしくは学童保育園については、従来どおり複数の感染者が認められる場合となっており、国の指導で 1 名の感染者では原則開所とされている。ただ、現実的には感染状況を見ながら決めており、兄弟の関係もしくは複数感染が認められた場合も、それぞれどのような感染の経緯があるのか、1 人のお子様からそうなったのか等、いろいろな経緯がある。1 人でも感染が認められ状況次第では広がる危険性があれば、クラス閉鎖を実施している。その辺については、学校

と同様、園医や在園看護師とよく協議した上、こども未来課で最終決定をしている。

その他の報告をする。善防公民館やオークタウンなどの公民館で実施している子育てひろばについて。3月6日まで延長されたまん延防止等重点措置期間中は、市内の方限定で、消毒等感染が広がらない対策を十分にしながら運用をしている。

また、卒園式、入園式のご来賓の参列と保護者については、学校教育課の報告のとおり学校と同様の対応をしたい。今のところ、ご来賓は控えていただく計画である。

教育委員からの意見や質問とこども未来課長の回答

- ・近くによつばこども園がある。そこでも5歳児の感染者が2回出ているので、どういう状況なのかと思う。あと、5歳児を持つ親御さんでそれに動じている方もいて、仕事を休んだりと大変な思いをされている。それは子育て支援のほうで見ていただくことはできるのか。

(回答) 先ほど申し上げたように、本来は原則開所なのだが、実際はクラス閉鎖を実施している。そして、エッセンシャルワーカーについては、受入れすべきなのだが、積極的なアナウンスはしていない。よつばこども園の保護者対応については、担当者によって多少対応がまちまちになってしまったところがあった。クラス閉鎖と登園自粛要請の対応のところ、登園自粛要請で「休んでください」とお願いするとき、また、登園自粛要請になると感染拡大の可能性があるので、陽性が認められていなくても発熱があるとか、そうした兄弟がいたりすると、出席停止の扱いをするのだが、そういったときにクラス閉鎖的に断ったケースがあって、現場で少しクレームになったというようなことを聞いている。

- ・本当に仕方がないなとつくづく思うのだけれど、お母さん方は本当に仕事のほうが大変で、何とか考えられないものなのか。

(回答) 今のところそうした臨時的な対応のケースは、クラスの先生も休んでもらうので、現実的に受入れ態勢が取れないというところがある。我々も保育に欠けるお子様を預かっているの、そこは継続すべきなのだが、感染が拡大すれば大変なことになるし、現実的に継続態勢が取れないということで、保護者には申し訳なく思っている。

- ・小さいお子さんばかりで先生も扱いが大変だと思うが、よつばこども園を含め、ほかのこども園でもどんな状況なのだろうか。

(回答) 濃厚接触者の判定については、基本的に我々大人のケースで、原則1メートル程度マスクなし15分以上の接触としている。5歳児についてはそうした接触は少ないかもしれないが、低年齢児になるに従って距離を保つことはより無理になる。ま

た、子ども同志で触れ合うことやおもちゃを共有することは多いので、恐らくその辺がはっきりできないところだ。それで、クラス閉鎖、登園自粛要請、保護者の判断で積極的に休んでいただく自己欠という3段階を踏んでいる。状況を見るとやはり園での感染拡大が見受けられる。だからと言って、その他の子を積極的に受入れるには、どこまでが安全かというところの判断が難しいので、休んでいただくというのが最善な方法かと思っている。

- ・子どもはマスクできないので大変だ。

(回答) 確かに実際、2歳前後ではマスクはできない。それから、預かり保育も年齢別で分けるようにはしているが、合同で預かり保育をするケースもある。現場としては無理をしてでも、クラスごとに分けるように精いっぱいやってくれているが、先生の配置状況によってなど、現場が疲れ切っており、疲弊してきているので、あまり無理も言えない状況がある。

- ・とにかくよく分かる。やはり小さな子どもさんなので、家に一人で置いておくわけにはいかなくて、保護者は仕事を休まないといけないということだ。これは教育委員会だけの問題ではなく、職場からの補助的なことなどやはり総合的に考えていかなければいけないだろう。中学生だったら一人で家に居れるが、3、4歳の子どもは必ず保護者が付き添わないといけない。それで、仕事にも行きたいけれど行けないという状況がある。でも、課長が言われたように、感染が広がってしまったら、それはそれで預かりはできなくなるし、本当にぎりぎりの状況で現場は仕事をされているし、判断もされている。学校でもそうだが、学校が閉鎖するというのではなく、教育委員会が医師会と連絡調整を取りながら閉鎖をする。それは非常に私も肌で感じるので、引き続きご苦勞ではあるが、お願いしたい。

小学校の先生は、担任の先生がある程度1日ずっと児童を見られるが、もともと私も中学校の教師だったので、中学校は教科担任制だから1時間、2時間という授業の中で、どの教科をするのかというようなこともやっぱり全体で考えていないと、問題が出てくるのかなと思う。Chromebookを持ち帰らせるというのも、なかなか重たいし負担もあると思う。ただ、学級閉鎖などが大丈夫になったら、全然そういう必要はないかもしれないので、せめてまん延防止等重点措置期間等に限ってでも、子どもたちの負担になるかもしれないが、その辺りもまた考えていただくようお願いする。

総合教育センター所長

総合教育センターより2点ご報告する。

1点目は令和3年度教職員研修講座について。教職員の資質能力の向上を狙いとし、

昨年度末に実施をした教職員アンケートで希望の多かった内容や講師を十分に考慮し、資料の表のような34コース、47講座を開設した。実施に際しては、小中特別支援学校教職員はもちろん、公立と私立のこども園職員等も参加できるよう、時期や日程などを調整した。また、感染対策に十分考慮し、オンライン研修を積極的に実施した。主な内容は、教職員のキャリアステージに応じた講座、新学習指導要領、ICT機器活用促進など新しい教育に向けた講座、退職現職校長や指導主事を講師としたOJT的な教師力向上講座、また、授業改善、生徒指導、発達支援といった喫緊の教育課題の解決に向けた講座である。

本年度は1,389名の参加があり、一部コロナの影響で中止になったことを考えると、過去5年間でもかなり多い参加数となった。また、今年度は教育講演会を初めとして、全体的な講座で非常に高い評価を頂いている。受講者の講座評価は5段階評価で4.79だった。これも講座評価としては、過去5年間で最も高い評価である。

新しい取組として評価が高かった講座は、OBを含めた加西市の教育現場の経験者が講師をした講座である。現場で実践を積み重ねた退職または現職校長、指導主事を講師とした講座では、情熱的でリアルな話が聞けて、ネットや書籍、一般的な研修では得られないより実践的で教師力向上につながる講座となった。なかなかはっきりといろいろな厳しい指導がされたので、受講者からは「今の自分に落ち込んだ、厳しい言葉が心に刺さった」などの感想があった。また、逆に、「やる気が湧いた。早く学校に帰って子どもたちに会いたいと思った」というような心が動かされた受講者の感想も寄せられた。これらの講座は加西教育の伝承の一助になっていると感じている。

ほかに、こども園に学ぶ講座も好評だった。以前は小学校と幼稚園やこども園が隣接していて日常的に連携ができたが、現在のような形になり数年がたっているので、連携の経験がない若手教員にとって、こども園の教育を見ることは大変学びが多く刺激になったようである。

また、鶴野未来課に協力いただいた鶴野飛行場平和学習では、平和学習だけでなく、郷土を知る機会にもなった。令和3年度当初、平和学習希望校は2校だけだったが、講座の後、鶴野飛行場の平和学習を追加する学校が増え、追加申込みで9校まで増えた。そして、令和4年度に希望する学校は今のところ11校になっている。

他にも喫緊の課題である幼児教育、特別支援、発達支援関連の講座、また、ICT教育は人気が高い状況である。また、沼澤教育委員が講師をされた事務教職員研修も、「聞きたいことがまだまだあって時間が足りない」、「来年度も希望する」という意見が多く届いている。

課題としては、大量退職と大量採用の時代を迎え、若手教員の割合が増えている学校現場では、研修がこれまで以上に本当に必要になってきている。しかし、各校の教育課程が密で行事や取組が多いため、市内16校に対して研修講座の日程確保が現実大変難しい。さらに、学校規模は年々小さくなっており、それに伴う職員数の減

少により出張や研修が難しくなっていること、また、複数の教員が受講すると学校運営に支障が出るので、受講ができないという声がアンケートで出された。

そこで、開講に当たり市内 16 校の行事予定を鑑みながら、教職員が受講したい講座を受講できるよう、また、受講によって学校現場の運営や教職員の負担が大きくならないよう、時期、時間帯等の調整をできる限り図っていきたい。また、学校を空ける時間を少しでも短くする意味でも、今後も続くであろう感染対策の意味でも、集合型研修とオンライン型研修の特性や利点を検証し、有効的なオンライン研修で受講の機会を確保することを考えている。来年度も教職員のニーズに応える魅力ある講座を目指し、十分検討して準備を進めていく。また、開設する講座内容について、これまでより分かりやすく教職員に提示し、ニーズに合わせて適切な講座が選択できるよう努めていきたい。

2 点目、令和 3 年度青少年健全育成カレンダー、クリアファイルの配布について報告する。今年度もいじめ防止啓発を目的とした青少年健全育成カレンダーとクリアファイルを作成した。児童生徒のポスター、標語の優秀作品を掲載した令和 4 年度版を教育委員の手元にお配りしている。カレンダーについては、市内公民館を初め加西市施設や関係機関、こども園、各町公会堂等に 3 月上旬ごろから配布し、市民総がかりでいじめ防止に取り組めるよう啓発に努める。また、身近で目に触れることの多いクリアファイルは来週、市内全児童生徒へ配布し、新小学 1 年生は入学後に配布をする。

教育委員からの意見や質問と総合教育センター所長の回答

- ・いろいろとご苦労されていると思うが、仮に講座を全部オンラインにしたら、1,389 名の参加者はもっと増えるのではないかと。
(回答) 原則、平日開催が多い。それで、その間、授業もなしで出てきているので、やはり限界はあると思う。授業と校務のやりくりをして出張で来られているので、ものすごく増えるかという、それは難しいかなと思う。
- ・来られている方と何かの予定で来られない方との混合でやれたらどうなのかなと思ったりした。仮に研修の動画だけを送るといのはどうか。そうなったら、モチベーション等は上がらないものなのか。
(回答) 講座の内容によっては、今言われた案でできると思う。内容とか、質問が必要とか、双方向である必要があるとか、そういった検証によりいろいろなパターンが考えられる。
- ・私も専門職の仕事をしているが、勉強会は今ほとんどオンラインばかりである。申し込むと動画がぱっと送られてくるので、それを見ながら自分もスキルアップして

いる。また教職員と自分の職とは違うので、同じ考えでいいのか何とも言えないけれども、動画で研修してあげたほうが先生方にとって負担は少なく、結構、受講者も上がったりするのではないかと思ったので、それも1回試してみたらどうか。例えばICTについて動画を先生がぱっと送ってあげたら、ひょっとしたらみんなが見られて、統一化を図るところまで行かないにしても、「あ、そういうことなんやな」と共有できるのではないかと思う。言っておいて無理だったら、何か一つに絞ってでもできないか。

(回答) 外部の先生の講座は少し難しいかもしれない。というのは、著作権などいろいろなことがあって、自分たちも何回か頼んだものの、なかなか通らなかったことがある。でも、可能なところでは、そういうことも考えて進めていきたいと思う。ご意見に感謝する。

- ・鶉野の話だが、私も九会の人間として、その講座を聞いて「来年も行こうかな」という学校が増えてきたということで、とてもありがたく思っている。上谷さんともよく話をするが、「修学旅行で他府県や市外からはたくさんみえるのに、加西の子はなかなか来てくれない」というようにずっと言われていた。平和学習や命のこともあるし、やはり今言われたような郷土である加西の歴史ということもあるので、こうして見学に行ってくれる学校が増えるのは非常にありがたい。

来年度ゴールデンウィークには新しい活性化施設も完成し、また見どころも増える。上谷さんは個人的にボランティア駅長もされているので、「北条鉄道を使って、法華口の駅からずっと歩いて防空壕なんかも見ながら来てくれたら、喜んで説明するんだけどな」としよっちゅう言われている。やはり1年に1回は、ふるさとははこういうところがあってというようなことも、子どもたちが知っておくのは本当に大事なことだろうと思うので、よろしくお願ひしたい。

生涯学習課長

次第に載っていないことで申し訳ないが、1点行事のご案内をさせていただきたい。

2月26日土曜日13時開場、13時半開演で、アステシアかさい多目的ホールにて、北条節句祭り創始900年祭記念講演会という催しを開催する。主催は住吉神社様、共催は加西市教育委員会。北条節句祭りは今年900年を迎えるということで、市への様々な協力要請も頂いており、市の事業協力の一環として開催させていただくものである。講演の仮題は「住吉神社節句祭りと鶉合せ・龍王舞について」で、坐摩神社の権禰宜という職に就き、民俗学者でもある橋本裕之さんを講師としてお招きし、講演が開催される予定になっている。一時は開催が危ぶまれたが、先着90名で行なう。お忙しいとは存ずるが、教育委員の皆様もお時間があればぜひご参加いただければと思う。よろしくお願ひする。

9 協議事項

なし

10 教育委員の提案

・先ほどオンライン授業や Chromebook について、沼澤委員と私とで提案させていただいた。少ししつこいようだが、よろしくお願ひしたい。

11 今後の予定について

- ・令和4年第3回定例教育委員会 3月29日(火) 14:00～1F多目的ホール
- ・令和4年第4回定例教育委員会 4月21日(木) 14:00～1F多目的ホール

12 その他

・ここでお聞きすべきことか少し迷ったのだが、お話しする。小学校から中学校に上がる娘さんを持つ親御さんから相談をされた。今度、中学に入るのに当たり、ストッキングをはいてはいけないという校則があるということで、「それが心配なんですけど、本当にそういう校則なんですか」と聞かれた。お子さんは北条中学校へ行かれるのだが、本当にそういう校則があるのか。自分たちが子どものときはそんなことはなかったように思うのだが。

(回答)何か変更があったり、細かく変わったりということについては、把握できているか分からないが、恐らくストッキングは可である。いろいろと柄が入ったり、派手であったりというようなものも売っているので、そうではなく肌色というか、自分の肌の色に合わせた通常のストッキングは可になっていると思う。ただし、体育や部活動をするとき脱がないと活動できないということで、不自由が生じることが多いので、校則で可になっているけれども、現状ははいてくる生徒がほとんどいないという状況だと思う。

・であれば、ストッキングをはいてもよろしいということで、はいてはいけないという校則ではないということか。

(回答)今現在、どうなっているか確認してみないと分からないけれども、校則で色がそれならば可になっていたと思う。

・他の加西市全中学校ではどうなのか。

(回答)申し訳ないが、直接学校に問合せしてもらったほうが確実だと思う。ただ、そんなに難しい話ではなくて、多分大丈夫だと思う。

・最近寒いので、親御さんが心配されて、「そんな校則があるんですか。聞いてください」と言われたから、お聞きした。

(回答)ただ、先ほどセンター所長も答弁したように、実際にはみんななかなかストッキングをはいてこないようだ。というのは、着替えのこととか、部活があったりとか、また、周りの子の様子を見たりして、はかない子もいると思う。また、学校に確認してもらえればと思う。

1 3 質問及び討議の内容（非公開）

議案第4号 令和4年度加西市立公立学校の管理職人事内申について

教育部長より令和4年度加西市立公立学校の管理職人事内申について説明する。

1 4 議決事項（非公開）

議案第4号 令和4年度加西市立公立学校の管理職人事内申について

原案どおり可決

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和4年2月24日

出席者

(出席者署名)